

◆ 船員の確保・育成体制の強化と予算拡充を要望

船員部会 -交通政策審議会海事分科会-Web 会議

交通政策審議会海事分科会第140回がWEB会議にて9月24日に開催され、国土交通省事務局が令和4年度海事関係予算概算要求の内容等について報告した。

この中で平岡英彦国内局長より「船員の確保・育成の強化」に関して令和3年度予算要求から減額となっている根拠、また松浦満晴組合長代行より海技教育機構経費のうち「高度な海上実習の実施のための校内練習船の代船建造」に関して2隻以外の予定について質問。事務局からの説明・回答を受け「船員の確保・育成体制の強化」および海技教育機構に関する予算をしっかりと確保し、最終的に令和3年度の決定額を下回ることのないよう要望した

第140回船員部会が開催され、国土交通省海事局事務局から、同局の令和4年度海事関係予算概算要求の内容について、総務課から全体像について、船員政策課と海技課から、船員関係予算について説明がなされた。

これを受け、平岡国内局長より「海事局の船員の確保・育成は喫緊の課題だ」という認識があると理解しているが、今年の船員の確保・育成体制の強化に向けた概算要求額をどういう根拠で抑えたのか」と質問した。これに対し事務局から「船員の確保・育成向け予算はこれだけではなく、船員の働き方改革関連でも要求しており、一定額の要求水準になっている」との説明があり、これを受け平岡国内局長は「今の説明でも予算要求額を控えたと理解できる、いずれにしても、令和3年度の予算を割り込まないように」と要請した。

また、松浦組合長代行から「海技教育機構（JMETS）の校内練習船の代替建造について、今回2隻予定しているということだが、全部で何隻あり、その他の代替建造をどう考えているのか」と質問した。これに対し事務局は「海技大学校も含めて全体で8隻あり、今回は2隻の要求だが、順次代替していくことを考えている」と回答した。松浦組合長代行は「順次の考え方は」と質し、これに対し事務局は「予算には限りがあり、全体を一度に代替することは難しい。その中で運用時間の長い2隻について優先的に代替する。残りについては、どの学校にどのくらい必要なのかを見ながら、優先的に代替することを考えている」と説明した。松浦組合長代行は「運用時間の長い物については、順次代替建造してもらうようお願いする」と重ねて要望した。